「海と山の街、神戸の風景をつくる」（事業責任者：小代薫）

地形模型と共にサンテレビの取材風景＠おんたき茶屋

背景　現在、神戸市中央区三宮を中心に再開発が進んでいるが、固有の地勢を生かす街づくり手法は未発達であり、近隣都市と横並びの風景が生まれるのではないかとの課題認識を持っている。

このような課題認識のもと、三宮を中心とした海と山を繋ぐ南北軸を拠点に、神戸の地勢的な固有性を街の魅力として世界に発信するための事業をいくつか進めている。本事業はそのうち南北軸の北側、山の拠点に位置する歴史的建造物の保存改修・活用に関するもので、特にその歴史的建造物を取り巻く山麓の周辺環境を市民にわかりやすく伝えるための活動（模型制作費）に対して助成頂いたものである

フィールドの歴史と概要　神戸市中央区、新幹線「新神戸駅」の北側徒歩15分程度のところに、神戸を代表する古くからの観光地である布引の滝がある。付近一帯は、都心近くでありながら豊かな歴史環境、自然環境を有しており市民の貴重な憩いの場となっている。

この場所は、明治5年に「布引遊園地」が整備され54区画の土地が分譲され茶屋等が設けられ、物見遊山の行楽施設となった。日本の近代公園誕生は明治6年の太政官布達によるが、内外人雑居を持った神戸での布引遊園地、東遊園地の設置をめぐる内外間の折衝や市民運動がきっかけとなってこの太政官布達となったことが明らかとなっている。

一帯には川崎造船所（現川崎重工）の創業家の菩提寺（現徳光院）、記念施設（創業者川崎正蔵の銅像を収めた天蓋が残る）のほか、国の重要文化財となっている上水施設（日本初の重力式コンクリートダムや水道橋など）の遺構なども残る。

大正4年創業の「おんたき茶屋」はこの布引の滝の雄滝（おんたき）を望む陵丘上から滝を向いて張り出すように設けられている。明治時代以降は、神戸の居留外国人のリクリエーション登山に習い、このような六甲山の茶屋が拠点となって毎日登山の習慣が地元に根付き、我が国のハイキング文化が育っていった。まさに神戸の、また日本全国の山遊びの原点と言える場であり、改めて海と山に挟まれた神戸というまちの固有性を世界に発信することができる施設として大変貴重である。

このように都心に近く、歴史環境、自然環境ともに充実した場所であるにもかかわらず、十分な顕彰と整備が行われていないのが現状である。

本事業は、この魅力を広く発信するもので、それを通じて「おんたき茶屋」の保存改修事業、また布引遊園地一帯の環境整備と活用を、市民、市民団体、民間企業、行政、大学の積極的な関与のもとで円滑に進め、神戸固有の環境を街全体で活用していくことを目標としている。

活動の概要　21年12月に、保存改修事業を、市民、民間、行政、大学のセクター横断的に行う目的で「神戸布引おんたき茶屋保存会」（代表者：小代薫）を立ち上げ、JR西日本神戸支社、阪急電鉄株式会社、神戸新聞社、神戸愛山協会、神戸ヒヨコ登山会、布引の滝に感謝する会、078神戸、アーバンデザインセンター神戸（UDC078）が会員となった。各会員企業・団体には、相乗効果を生むように足並みを揃え連携事業の企画と実施を依頼しており、現在順調に協働いただいている。

依頼に応じる形で神戸新聞社では、「てくてく神戸」という神戸市内各所の歴史を紹介する連載企画が、これをきっかけにスタートし、布引だけでなく、居留地、兵庫、神戸駅などの特集が掲載され、現在も発展的に継続中である。

JR西日本には、情報誌「西ナビ」（8月号）で布引を特集いただき、遠方からの客が増やした。

神戸市には、文化財課の協力のもと、22年10月に「おんたき茶屋」の神戸歴史遺産（神戸市）への申請を行い、23年1月に神戸歴史遺産に認定された。認定の記事は写真入りで神戸新聞、毎日新聞に掲載され、またサンテレビでも、本事業で制作した模型と共に取り上げられ広く認知が広がった。なお、本年7月頃よりは、クラウドファンディン型ふるさと納税（個人、企業）を活用した改修費用の補助を受ける予定で準備を進めている。今後は、本地域連携事業で製作した模型をふるさと納税の広報等にも活用していただき、さらに広い範囲にその特徴を発信できればと考えている。